

○吉川元春 きつかわもとはる

戦国大名となった毛利元就の次男。
母親の実家である吉川氏を相続。

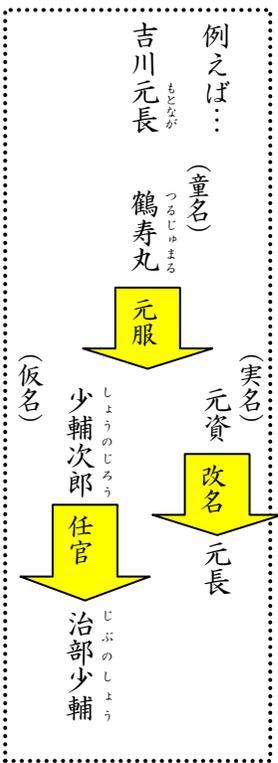
吉川氏は現在の北広島町北部地域を本拠とする国衆（有力な領主）で、元春が当主となって以降は、大名毛利氏のもとで主に山陰方面の軍事指揮を担当しました。

○実名 じつみょう

中世の人々が元服（成人）して名乗る名前。
名付け親の後字をもらって
実名の前字とすることが多い。

実名と同時に「仮名」（通称）も、もらいます。
実名や通称は変わることがあります。

元服前は「童名」を名乗ります。
わらわな



○ここに登場する児玉氏

児玉就忠は毛利元就の奉行人（官僚）、
元良は毛利隆元・輝元の奉行人、
春種は吉川元春の奉行人として活動しました。

○花押 かむす

サイン・自分の署名（自署）。
現代では、クレジットカードの裏に記したサインを
本人確認のために使いますね。
花押もそれと同じ役割をします。
年をとったり、立場が変わったり、
あるいは偽造防止のため、
花押を変えることがあります。

○百貫(文)とは…

中世後期の中国地方では、村の規模を

「○貫(文) (〓〓石)」と表しました。

厳密に検地して測ったわけではなく、

「だいたい○貫(文) 〓〓石くらい」と

おおまかに示したのです。

ちなみに…

百貫文 (〓百石) の規模とは、

一段 (約一、〇〇〇²m) 当たり

五〇〇文 (〓〇、五貫^{かん}〓五斗^と)

の年貢を収納したと仮定すると、

二〇町 (約二〇ha) の面積になります。

これは、マツダスタジアムのグラウンド18個分に

相当します。

○梶原保（杉原保）

京都にある石清水八幡宮に伝わる文書により、

・梶原保が備後国にあったこと、

・莊園領主が石清水八幡宮であったこと、

などについては、すでに知られていました。

しかし、今どのあたりなのかについては、

謎のままでした。

通説では、梶原保を「苗字の地」とする梶原（杉原）氏の子孫である木梨氏が、現在の尾道市木ノ庄町・原田町付近を本拠としたことから、そこが梶原保の有力な推定地となっていました。

今回、胎蔵寺の文書が発見されたことにより、

梶原保が今の福山城跡周辺地域であったことが判明し、

謎が解けました。

○「一行」とは…

- ・ 文章の終わり（書き止め）が「一行如件」となっている文書を、「一行」と呼んでいました。
- ・ 殿様（主人）が、家臣（従者）に対して所領を与えたり、家督の相続を認めたりするとき、正式の証明書として「一行」が作成されました。
- ・ 「中世文書を読む（一）」で紹介した吉川元春の手紙（天正十二年）三月晦日付け）や、毛利輝元の手紙（天正十二年三月二十一日付け）は、所領を与えたり、家督の相続を認めたりするとき作成されたものですが、あくまで「内々の約束」にすぎません。このような、「内々の約束」に用いる文書は、「御捻」と呼ばれました。
- ・ 書き止めが「一行如件」でなくても、正式の証明書として作成されたもの（例えば、前回の展示資料）は、「一行」と呼ばれました。

○「下文」とは…

- ・ 文章が「下」から始まる文書を「下文」と呼んでいました。
- ・ 地位の高い人・機関から、地位の低い人・機関に対して「下す」文書です（上意下達文書）。
- ・ 平安時代から使われ（例えば、官宣司・摂関家政所文・院庁下文・国司下文など）、鎌倉・室町幕府でも使用されました（將軍家政所下文・將軍下文）が、次第に使われなくなりました。
- ・ 周防・長門両国を本拠とする大内氏は、戦国時代にも使用しました。